

**令和5年度千葉県水産振興審議会 栽培漁業・資源管理部会
議事概要**

- 1 日 時 令和6年3月21日（木）午後1時30分から3時まで
- 2 場 所 千葉県教育会館304会議室
- 3 出席委員 委員10名中10名出席
柴田委員、立岡委員、石川委員、土屋委員、石井春人委員、
松本委員、鈴木委員、高梨委員、石井つや子委員、坂下委員
- 4 概 要

事務局から出席委員数の報告を行い、部会が成立していることを確認した。

(1) 部会長の選出及び部会長代理の指名について

部会長について、委員から立岡委員が推薦され、異議なく選出された。
部会長代理は、部会長から土屋委員が指名された。

(2) 「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」における令和5年度実績について

資料1、資料2-1、資料2-2、参考資料1-2、参考資料1-5により
県から説明があった。

(3) 「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」における令和6年度計画について

資料3-1、資料3-2により県から説明があった後、質疑応答が行われ、
原案のとおり承認された。

【質疑応答等】

① マコガレイの種苗生産について

委 員：令和5年度のマコガレイの種苗生産実績について、ホルモン処理
による採卵を行わなかったとあるが、水温等の環境要因の影響で
産卵期が早まったということか。

県：マコガレイは、ホルモンを使用せずに天然魚から得られる卵を
使用することを基本としているが、良い天然魚が得られない場合
に備え、ホルモン処理の準備もしている。今年度は、天然魚から
十分な採卵量が得られたため、ホルモンを使用しなかった。

(4) 本県主要魚種の資源評価・管理について

参考資料2-1、参考資料2-2により県から説明があった。

【質疑応答等】

① キンメダイの令和5年度資源評価について

委員：キンメダイについて、国はTAC化を進めようとしている中、千葉県では適正な資源管理を行い、資源水準は中位から高位で、資源動向も良好であることについて、国に対してもっと積極的に伝えていただきたい。

県：キンメダイの資源評価票は県のHPで公表している。キンメダイTACに係る国との協議においては、資源評価結果を積極的に伝えていきたい。

② ヒラメの令和5年度資源評価について

委員：ヒラメについて、千葉県の中で海域が異なる2系群それぞれで資源水準や動向を評価しているが、千葉県内の水揚量で評価しているか教えて欲しい。

県：千葉県漁業者の水揚量で評価している。

(5) 漁場整備に関する事業実施状況について

参考資料3により県から説明があった。

(6) 磯焼け対策に関する取組状況について

参考資料4により県から説明があった。

【質疑応答等】

① 磯焼け対策について

委員：磯焼け対策について、成功している事例があれば教えて欲しい。

県：岩井地区で食害生物のガンガゼを駆除したことにより、一部の海域で藻場が回復したという事例がある。

委員：館山では、食害魚を漁獲する刺し網漁業者が減少している。

県：漁業者が減少し、通常操業での漁獲が少なくなっているが、持ち帰り運動として、食害魚が網にかかった際には、海に逃がさないようお願いしている。

委員：勝浦では、藻場を食害する魚類の一部は市場出荷されている。

委員：鴨川は、江見地区で藻場が減っているということは聞いている。

県：県では、簡易に食害魚を漁獲する方法として、かごの設置による食害魚の漁獲に関する試験、外房ではブダイの食害に対するはえなわでの漁獲可能性について調査をしている。

また、食害魚の有効利用を図るなど漁業者の収入に繋がるような取組を行っていきたい。

委員：参考資料4の磯焼けの範囲について、藻場が維持されている場所

に挟まれる形で磯焼けの兆候の範囲があるが、判断の目安はあるか。

県：磯焼けの兆候は、藻場の一部消失や食痕が確認されているが、広範囲には見られていない状況である。藻場が維持されている場所に挟まれる形で磯焼けの兆候が見られる理由は明らかではないが、漁業者の減少も影響しているかもしれない。

委員：様々な取組に強弱をつけて、藻場の回復に向けた研究を進めてほしい。

県：対策には強弱をつけて行いたい。磯焼けの兆候が見られた場合は徹底した食害魚の駆除など磯焼けが広がらないような対策、藻場が残存している地域ではモニタリングを行い、早急に対策が打てるように、関係者と一緒になって取り組んでいきたい。

委員：県による勝浦沖のモニタリングの結果、南部の浜行川地区では、浅いところはダメであるが、深いところはまだ海藻がある。はえなわによる食害魚の駆除に取り組む計画があり、鮮度が悪くて水揚げできないという問題も解決するかと考えている。

県：藻場が消失している場所が漁業者の減少している場所であることに、危機感を持っている。取組の基本は漁協や漁業者が行うものであり、進めていくにも人が少ない状況である。将来的には、色々な人の力を借り、藻場を回復することも大事であるため、関係者に丁寧に説明しながら進めていく必要がある。取組の際には、御理解や御協力をお願いしたい。